

2018年度

環境活動レポート

2018年度版(対象期間:平成30年9月~令和元年8月)



今回発行: 2019年 10月 31日

次回発行: 2020年 10月(発行予定)

株式会社 商報舎 坊主滝事業所

目次

- 1 環境方針
- 2 組織の概要
- 3 対象範囲
- 4 環境目標
- 5 環境活動計画
- 6 環境目標の実績
- 7 環境活動計画の取組結果の評価並びに次年度の取組内容
- 8 環境関連法規への違反、訴訟の有無
- 9 代表者による全体の評価と見直しの結果

株式会社 商報舎

環境方針

<基本理念>

株式会社 商報舎 坊主滝最終処分場は、企業活動において、地球環境保全が最重要課題であることを認識し、環境に優しい社会に貢献します。

<行動指針>

- 1, 環境関連の関係法令及び公害防止協定等を尊重し環境保全に努めます。
- 2, 受託する産業廃棄物の再資源化を推進する提案をすることで、リサイクルの向上に結びつけていきます。
- 3, 二酸化炭素排出量、廃棄物排出量及び総排水量の抑制に努めます。又、搬入車両に二酸化炭素排出量の抑制を促します。
- 4, 環境目標を定め、継続的に改善活動を行います。
- 5, 関係官庁・団体及び地域社会とのコミュニケーションを図り、共生を推進します。
- 6, 社員及び常駐の関係者に環境方針・環境目標を周知させるとともに、公開します。
- 7, 環境方針の定期的な見直しを行います。

制定 平成23年12月 1日
改訂 平成30年 9月 1日

株式会社 商報舎

代表取締役 佐藤眞介

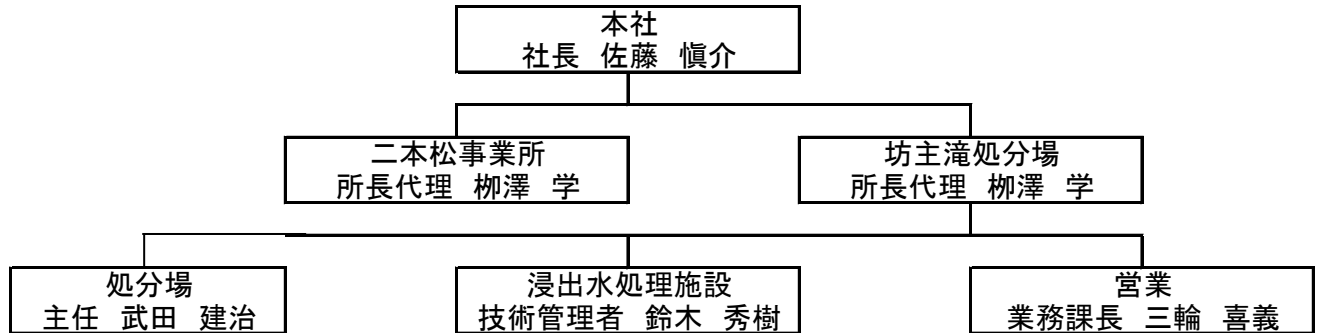
2 組織の概要

(1)事業者名及び代表者名

株式会社 商報舎

代表取締役 佐藤 真介

(2)会社の組織図



(3)事業活動の内容

- ・産業廃棄物の管理型最終処分場の運営

(4)所在地と連絡先(担当者)

事務所・処分場 福島県二本松市坊主滝7番地1

連絡先(TEL・FAX)0243-23-5133

環境管理責任者 柳澤 学

連絡担当者 鈴木 秀樹

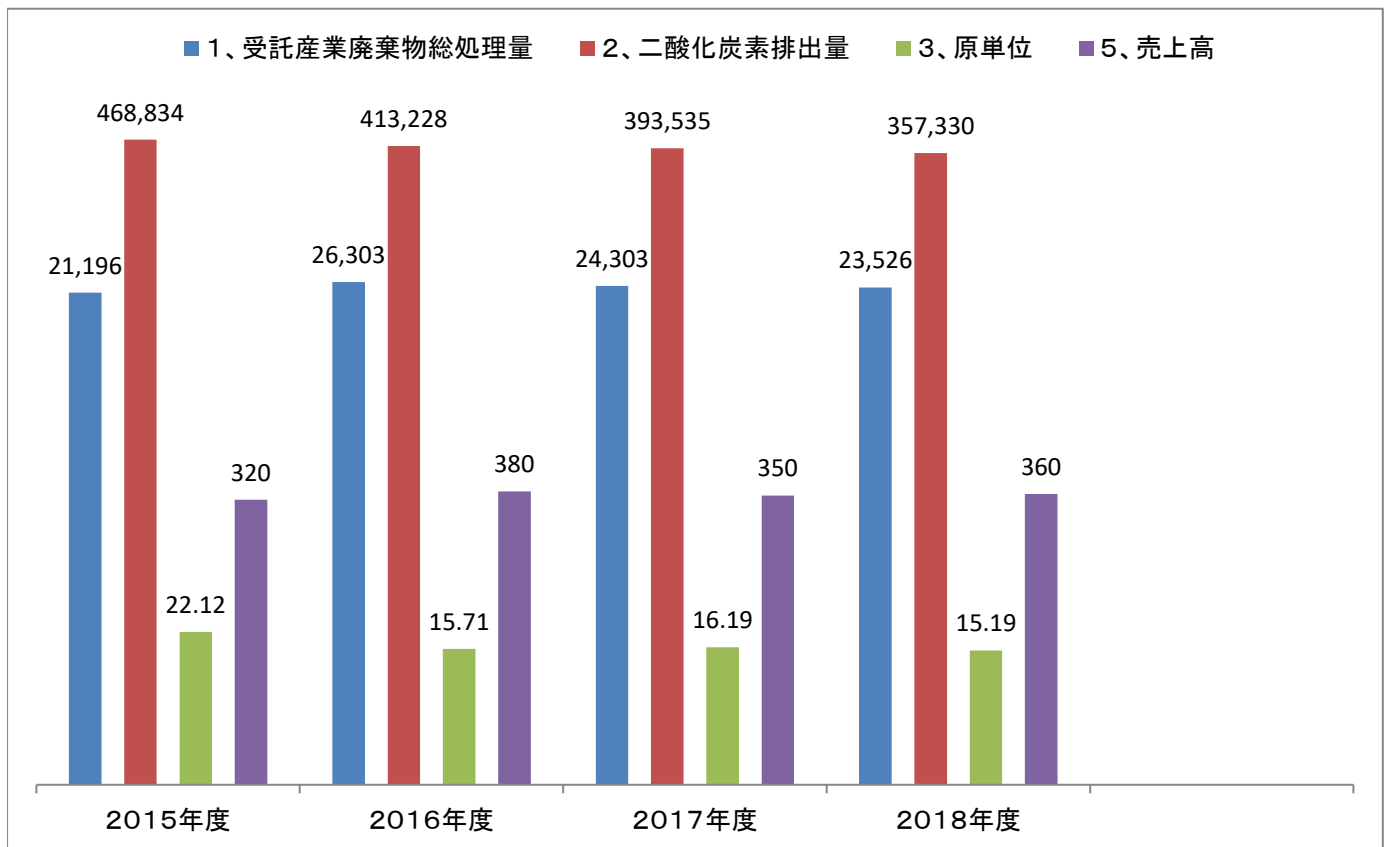
(5)事業の規模

創業 昭和16年11月 資本金 1,000万円

平成19年 3月 第3処分場竣工

売上高と従業員数

規模	単位	年	2015年度 15/9~16/8	2016年度 16/9~17/8	2017年度 17/9~18/8	2018年度 18/9~19/8
1、受託産業廃棄物総処理量	t		21,196	26,303	24,303	23,526
内訳・がれき類	t		5,839	6,321	5,887	5,068
・鉱さい	t		2,332	7,474	7,565	7,013
・汚泥	t		13,025	11,615	9,802	9,856
・金属くず	t		0	3	0	0
・ゴムくず	t		-	0	0	0
・廃プラスチック類	t		-	0	0	0
・ガラス・陶磁器くず	t		-	857	1,049	1,589
2、二酸化炭素排出量	kg-CO2		468,834	413,228	393,535	357,330
3、原単位	kg-CO2/t		22.12	15.71	16.19	15.19
5、売上高	百万円		320	380	350	360
6、従業員数	人		9	9	9	11
7、総処理水量	m ³		16,614	13,506	13,007	10,320
8、降雨量/年	mm		1,071	931	950	876



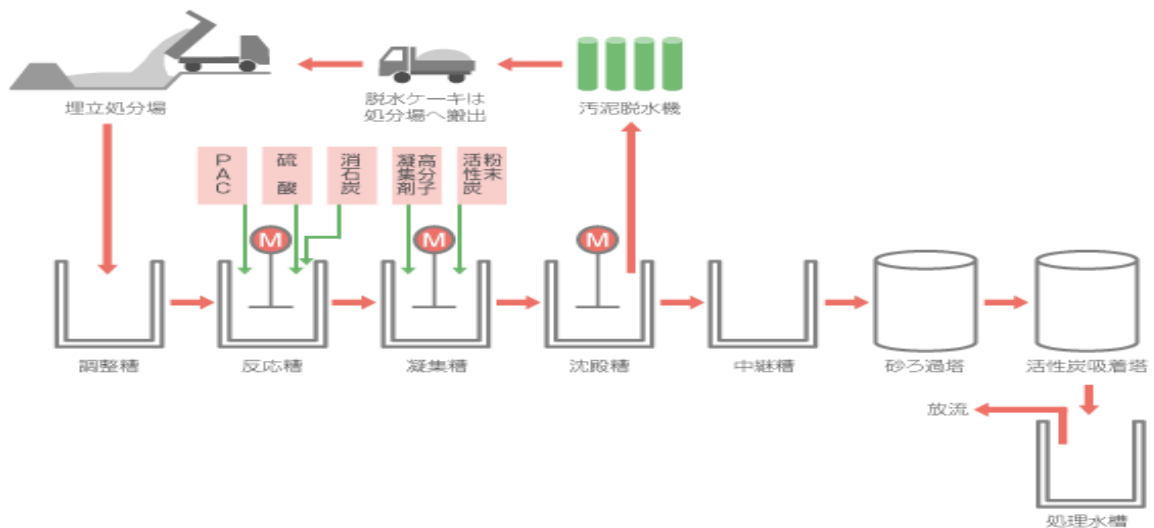
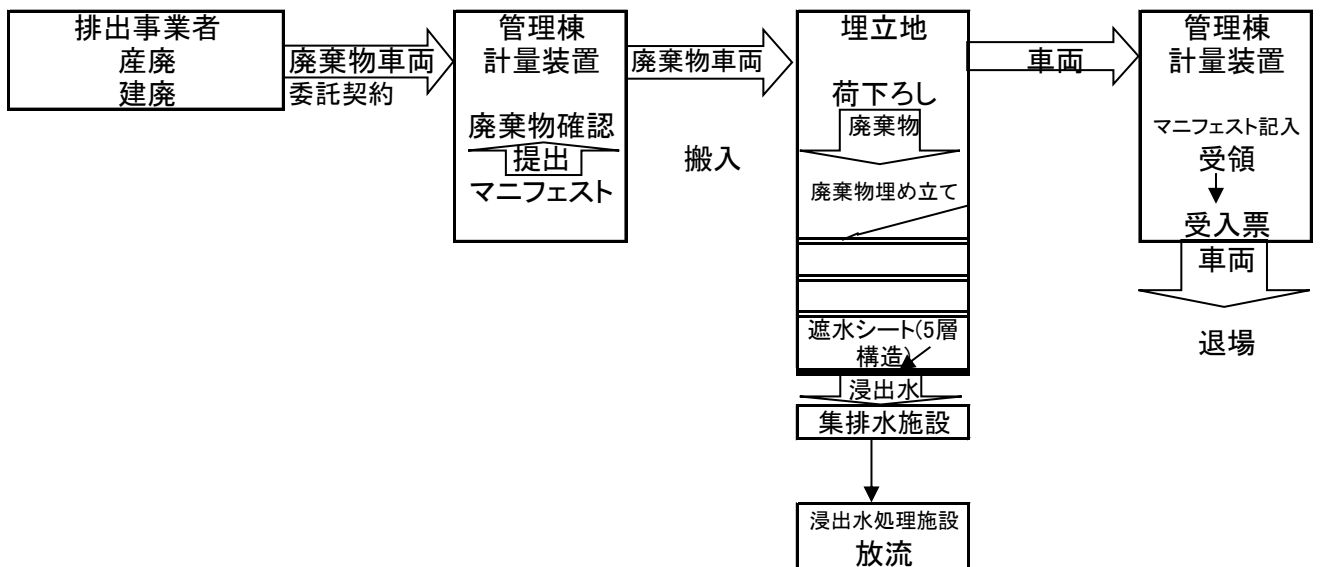
(5)許可の内容

許可番号	第00730018753号
許可年月日	令和元年6月24日
許可の有効期限	令和6年5月22日
事業計画の区分	管理型最終処分場
廃棄物の種類	汚泥、金属くず、鋳さい、がれき類、ゴムくず、プラスチック類、ガラスくず及び陶磁器くず、(これらのうち特別管理産業廃棄物であるものを除く。)以上7種類。

(6)施設などの状況

- | | |
|-------------|--------------------------------|
| 1、処理施設の種類 | 管理型最終処分場 |
| 2、処理する産廃の種類 | (5) 許可の内容に記載 |
| 3、処理能力 | 埋立地面積 22,356㎡
埋立容量 234,400㎡ |
| 4、処理方式 | サンドイッチ工法 |
| 5、処理工程図 | 下記の工程概略図に示す |

処理工程概略図



3 対象範囲

(1) 認証の対象範囲

株式会社 商報舎 坊主滝事業所

(2) 認証の対象活動

産業廃棄物最終処分業

(3) 全組織・全活動について

事業所は全国に6カ所あるが、独立して事業を実施している事業所は坊主滝事業所だけである。他の4事業所は、依頼先会社の製造のラインの一部を請け負っている事業内容であり、依頼先会社（二本松事業所は、テクノメタル株式会社。設備保全事業は、テクノメタル株式会社及び株式会社アイメタルテクノロジー。東自事業所は、三菱ふそうトラック・バス株式会社。北上事業所は、株式会社アイメタルテクノロジー。）の環境経営マネジメント(ISO14001)の中に組み込まれ環境経営を実施している。従って、今後、他の事業所において、エコアクション21の認証を所得するスケジュールはない。尚、本社は、賃貸ビルに入っていて管理費等も含まれている。社員は、2名で半日しか滞在して作業しないことから、環境負荷も低いので本社は含めないこととする。なお、省エネに対しての活道は、実施してもらうようにします。

(4) 対象取組期間

環境活動レポートの対象取組期間
2018年9月1日～2019年8月31日

4 環境目標

環境方針と環境影響評価の結果に基づき、環境目標を次の通りに定める。

- 1、二酸化炭素排出量の削減
- 2、廃棄物排出量の削減
- 3、総排水量の削減
- 4、化学物質使用量の削減
- 5、グリーン購入の推進
- 6、社会貢献活動への積極的参加

以上の環境目標の達成期限は、令和元年8月とする。すなわち毎年見直しを行います。

(1) 主な環境負荷の実績

2018年9月1日～2019年8月31日の当社における主な環境負荷の実績は、下表に示す通りです。

二酸化炭素排出量(kg-CO2)				
電力(係数0.556)	灯油	LPG	ガソリン	軽油
13,968	498	12	2,888	37,580

* 平成27年度、東北電力株のCO2排出係数0.556(kg-CO2/kWh)を使用。

使用量(m ³)	廃棄物排出量(t)	
水使用量	一般廃棄物	内部処理量
36	0.190	23.31

(2) 環境目標(短期・中長期)の設定

今まで、基準年としていた年は、震災廃棄物の処分量が多かったため環境目標を達成できない項目が多くなってきていた。通常年となる安定した処分量に戻った、2015年を基準年とする見直しを行い環境目標(短期・中長期)の設定をする。

二酸化炭素排出量、廃棄物排出量、総排出量の必須3項目並びに自主設定項目について、単年度目標並びに中長期目標を下記のように設定しました。

	単年度目標	中長期目標
	2018年度(H30.9～R1.8)	2016～2020年度 (平成28年度～平成32年度 5年間)
二酸化炭素排出量	基準年度の1.8%年削減	2020年度までに2015年度実績の排出量3%削減を目指す。
廃棄物排出量	基準年度の1.8%年削減	2020年度までに2015年度実績の排出量3%削減を目指す。

	単年度目標	中長期目標
	2018年度(H30.9～R1.8)	2016～2020年度 (平成28年度～平成32年度 5年間)
総排水量(水使用量)	基準年度の1.8%年削減	2020年度までに2015年度実績の排出量3%削減を目指す。
化学物質使用量	PRTR法対象物質は使用していない。その他の物質を3品目(①PAC②10%硫酸③消石灰)使用しています。但し、処理工程が決められており自らの判断で削減することができませんが化学物質を適正に管理していることを定期的に確認します。	
グリーン購入	グリーン購入を推進していく	グリーン購入を推進していく
社会貢献活動	搬入路の整備等	搬入路の整備等
再資源化提案の推進	2件	2020年度までに3件を目指す。

(3) 2018年度(取組対象期間)環境目標値

(2)の考え方に従って2015年度実績を基に、2018年度(H30. 9～R1. 8)の具体的目標値を下記のように算出しました。

	2015年度実績(基準年) (2015. 9～2016. 8)	2018年度目標(基準年度排出量の1.8%減) (2018. 9～2019. 8)
二酸化炭素排出量		
1) 電力	18,320kg-CO2	17,990kg-CO2
2) 灯油	748kg-CO2	735kg-CO2
3) LPG	6kg-CO2	5.9kg-CO2
4) ガソリン	3,910kg-CO2	3,840kg-CO2
5) 軽油	47,002kg-CO2	46,156kg-CO2
廃棄物排出量		
1) 一般廃棄物	105kg	103kg
2) 内部処理量	35.18t	34.55t
総排水量(水使用量)	32m ³	31.4m ³
化学物質使用量	PRTR法対象物質は使用していない。その他の物質を3品目(①PAC②10%硫酸③消石灰)使用しています。但し、処理工程が決められており自らの判断で削減することができませんが化学物質を適正に管理していることを定期的に確認します。	
グリーン購入	1、事務用品	グリーン購入を推進していく
社会貢献活動	搬入道路の整備	搬入道路の整備
再資源化提案の推進	2件	2件

※2015. 9～2016. 8 廃棄物処分量 21,196t

※2018. 9～2019. 8 廃棄物処分量 23,526t

5 環境活動計画

(1) 二酸化炭素排出量の削減

① 電力使用量の削減

- ◆ 室内温度は、冷房時28℃、暖房時は、20℃の設定にする。
- ◆ 電気製品の買い替えの際は、省エネタイプの機器を選定する。
- ◆ 昼休みなど、不要な照明を消灯する。
- ◆ 席を離れるときは、PCをスタンバイモード、外出時はシャットオフ。

- ◆ 電気スイッチ付近に節電のステッカーを貼り、意識の徹底を図る。
- ② 灯油使用量の削減
 - ◆ 室内温度は、暖房時20℃の設定とする。
- ③ ガソリン・軽油使用量の削減
 - ◆ エコドライブの徹底。
 - ◆ 車両入替時は、エコカーを優先して購入する。
 - ◆ 無駄なアイドリングをしないよう意識の徹底を図る。

(2) 廃棄物排出量の削減

- ① 一般廃棄物
 - ◆ 分別を徹底し、可能な限りリサイクルする。
 - ◆ 外部からのゴミはなるべく持ち込まない。
 - ◆ 両面コピーや縮小コピーの励行。
- ② 産業廃棄物
 - ◆ マニフェストをもとに適正な処理を行う。
 - ◆ 産業廃棄物の再資源化に取り組みリサイクル率の向上を図る。
- ③ 排水量(水使用量)の削減
 - ◆ 洗車時や手洗い時など水をだしばなしにしない。
 - ◆ 手洗い場などへの節水ステッカーの貼り付けし意識の徹底。
 - ◆ 水処理施設からの排水量の削減
- ④ 化学物質使用量
 - ◆ 化学物質使用量の適正管理に努める。
- ⑤ グリーン購入の推進
 - ◆ エコマーク製品などの環境配慮配慮製品を積極購入する。
- ⑥ 社会貢献活動の推進
 - ◆ 地域の清掃活動等に積極的に参加する。
 - ◆ 搬入路などの道路整備、草刈り等の実施。
- ⑦ 浸出水の排水の水質管理
 - ◆ 社内で、排水基準を設けて適正に管理する。

	県条例	二本松市条例	社内基準
PH	5.8～8.6	5.9～8.1	5.9～8.1
BOD	25	20	17
COD	25	20	17
SS	70	40	20
油分	5	5	3

6 環境目標の実績 (2018. 9～2019. 8)

対象取組期間における環境目標の達成状況は下記に示すとおりです。

(1) 二酸化炭素排出量

① 全体(目標:1.8%削減)

	2015年度実績	2018年度目標	2018年度実績	削減量	削減率 %
kg-CO2	69,691	68,437	54,947	-13,490	21
原単位(kg-CO2/t)	3.3		2.3		30

コメント 全体的にみると、目標値を上回る結果になりました。今後も、目標達成できるように従業員一同で、EA21に取組んでいきたいと思ひます。

② 電力使用量(目標1.8%削減)

	2015年度実績	2018年度目標	2018年度実績	削減量	削減率 %
kg-CO2	18,320	17,990	13,968	-4,022	24
原単位(kg-CO2/t)	0.9		0.6		33

コメント 昨年度よりも、実績値・削減量を上回る結果となった。来年度も、目標達成できるように節電

対策を努力していきたい。

③ ガソリン使用(目標1.8%削減)

	2015年度実績	2018年度目標	2018年度実績	削減量	削減率 %
kg-CO2	3,910	3,839	2,888	-951	26
原単位(kg-CO2/t)	0.2		0.1		50

コメント 日頃から、エコドライブの徹底を呼び掛けているし、従業員も意識して運転をしているので、目標達成に繋がったと思います。今後も、継続していきます。

④ 軽油使用(目標1.8%削減)

	2015年度実績	2018年度目標	2018年度実績	削減量	削減率 %
kg-CO2	47,002	46,156	37,581	-8,575	20
原単位(kg-CO2/t)	2.2		1.6		27

コメント 軽油の使用量も減り、アイドリング時間、エコ運転に気を付けてもらいながら作業していることが、目標達成に繋がったと思います。

⑤ 灯油使用(目標1.8%削減)

	2015年度実績	2018年度目標	2018年度実績	削減量	削減率 %
kg-CO2	748	735	498	-237	33
原単位(kg-CO2/t)	0.035		0.02		43

コメント 徹底した温度管理で、削減目標が出来たと思います。

⑤ LPG使用(目標1.8%削減)

	2015年度実績	2018年度目標	2018年度実績	削減量	削減率 %
kg-CO2	6	6	12	6	-100
原単位(kg-CO2/t)	0.00028		0.00051		-82

コメント 目標達成には、届かず。基準年の数値の2倍になってしまった。原因を究明し、今後の対応、対策検討し、来年度は、達成できるようにしたい。

(2) 廃棄物排出量

① 一般廃棄物(目標1.8%削減)

	2015年度実績	2018年度目標	2018年度実績	削減量	削減率 %
kg	105	103	190	87	-80
原単位(kg-CO2/t)	0.005		0.008		-60

コメント 基準年の約2倍になってしまった。原因を究明し、今後の対応、対策検討をします。

② 産業廃棄物 内部処理量(目標1.8%削減)

	2015年度実績	2018年度目標	2018年度実績	削減量	削減率 %
kg	35,180	34,547	23,310	-11,237	34
原単位(kg-CO2/t)	1.7		0.9		47

コメント 薬品の添加量を少なくしたりと工夫をし、排出量を抑えているので今後も継続し削減していきたい。

(3) 総排水量・水使用量

① 水使用量(目標1.8%削減)

	2015年度実績	2018年度目標	2018年度実績	削減量	削減率 %
m ³	32	31	36	5	-13
原単位(kg-CO2/t)	0.0015		0.0015		0

コメント 年間を通して、使用量が多かったのが冬場でした。なぜ、このような結果になったのかを検証して、来年度は目標達成できるようにしたい。

② 排水処理施設の処理水量(1.8%削減)

	2015年度実績	2018年度目標	2018年度実績	削減量	削減率 %
m ³	16,614	16,315	10,320	-5,995	38
原単位(kg-CO2/t)	0.8		0.4		50

コメント 基準年に比べ雨量も少なく、処分場場内の面積も狭くなっていることで浸出水の量も少なくなってきた、処理量も削減できたと思います。

(4) 化学物質使用量の削減

PRTR法対象物質は使用していない。その他の物質を3品目(①PAC②10%硫酸③消石灰)使用している。但し、処理工程は決められており自らの判断で削減することは出来ませんが化学物質の適正に管理していることを定期的に確認します。

(5) グリーン購入

2017年度は、事務用品など多数購入しました。

(6) 社会貢献活動

搬入路の整備や冬期間の除雪を実施した。夏季には、搬入路の除草作業、道路の整備を実施した。

ボランティア活動、搬入路のゴミ拾いも実施した。

7 環境活動計画の取組結果の評価並びに次年度の取組内容

(1) 環境活動計画の取組状況の評価

○…十分に取組んだ △…ある程度取組んだ ×…取組み不十分(未実施) -…評価保留

取組項目			
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減	◆室内温度は、冷房時28℃、暖房時20℃の設定とする	△
		◆電気製品の買い換えの際は、省エネタイプの機器を選定する	-
		◆昼休み等、不要な照明を消灯する	○
		◆席を離れるときは、PCをスタンバイモード、外出時はシャットオフ	○
		◆電気スイッチ付近に節電のステッカーを貼り、意識の徹底を図る	○
	灯油使用量の削減	◆室内温度は、暖房時20℃の設定とする	△
	ガソリン・軽油使用量の削減	◆エコドライブの徹底	○
		◆車両入れ替え時は、エコカーを優先して購入する	-
		◆無駄なアイドリングをしないよう意識の徹底を図る	○
の廃棄物の削減	一般廃棄物	◆分別を徹底し、可能な限りリサイクルする	○
		◆外部からのゴミはなるべく持ち込まない	○
		◆両面コピーや縮小コピーの励行	○
	産業廃棄物	◆マニフェストをもとに適正な処理を行う	○
		◆受託産業廃棄物の再資源化を推進する提案をすることでリサイクルの向上に結びつける	○
排水量(水使用量)の削減	◆洗車時や手洗い時など、水を出しっぱなしにしない	○	
	◆手洗い場などへの節水ステッカーの貼り付けし意識の徹底	○	
	◆水処理施設からの排水量の削減	○	
科学物質使用量の削減	◆化学物質使用量の削減及び適正管理に努める	○	
グリーン購入の推進	◆コピー用紙等のグリーン購入の推進	○	
社会貢献活動の推進	◆地域の清掃活動等に積極的に参加する	○	
	◆搬入路などの道路整備、草刈り等の実施をする	○	

(2) 次年度の取組内容(方向性)

本年度、未達成部分について、再度、取組をしていく。また、本格的な取組の方向性については、本年度末(R1. 8)以降、代表者の見直しを経て来年度の取組の方向性を決定します。

8 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟の有無

現在まで、環境関連法規等の遵守状況を確認しましたが、違反状態は認められませんでした。また、過去3年間関係当局からの違反等の指摘や指導、あるいは、外部からの訴訟について

もありません。
9 代表者による全体評価と見直しの結果

今年度の取り組みを見直してみると、ほとんどの項目が目標達成できてました。
従業員一人一人が、節電・節水・削減等を意識して活動に取り組んでいるから出来たと思います。
来年度も、目標達成出来るようにより一層取り組みに励みたいと思います。
また今年度、目標達成できなかった項目については、原因を明確にし究明したいと思います。
その後は、対応・対策等を検討しながら、目標達成出来るように活動に取り組みたいと思います。
次に、来年度は、中長期目標の4年目に入ります。段々と、目標達成が難しくなることだと思えます。
毎日の積み重ねが、エコに繋がるので一人一人が、意識をもって活動してくれば来年は、全部の
項目で、削減・節水・節電できると思いますので一丸となって活動していきたいと思えます。